

学びの広場

松田町立小中学校「ICT教育」

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023

ICT教育とは
学校教育の場にICT（情報通信技術）を活用すること。具体的には、電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末等を用い、教育の質の向上をめざします。

整備状況について

平成25年6月に閣議決定された「第二期教育振興基本計画」では、児童生徒3・6人あたりに教育用コンピュータを1台、無線LANの整備100%、校務用コンピュータを教員に1人1台の整備を目指すとしています。

また、本年5月に出された「教育再生実行会議第七次提言」では、ICTは、学習の手段及び学習環境として一層重要な要素になることが挙げられています。
そのような情勢の中、松田町では、平成26年度から各学校におけるタブレット端末の導入、校内無線LANの整備、ICT支援員の配置、電子黒板等の投影機の導入を進め、平成30年度までの5カ年計画でICT整備を進めています。

また、課題となっている教員の多忙化の解消を図るために、本年度、校務支援システムを導入しました。
各学校においては、ICT機

器を活用した授業づくりにも取り組んでおり、積極的な活用も進めています。

現在、町教育委員会事業として「ICT機器活用等研究連絡会」「ICT活用指導力向上研修会」を進めています。これからは児童生徒に学力をつけていくための手段として、また、情報活用能力を育成するための手段として、松田町と各学校が連携し、よりよい学習環境の整備やICT機器の効果的な活用方法を検討していきます。

ICT機器活用等研究連絡会

【目的】

「分かる授業」のために、ICT機器を活用した授業の実践等について情報交換をすることにも、効果的な活用などについて検討する。

【概要】

平成26年度から毎月1回程度、各学校の情報教育担当の教



員、教育委員会担当者、ICT事業の委託先である業者の社員、及び学校ICT支援員が参加し、「ICT機器活用等研究連絡会」を行っています。

各学校のICT整備における現在の状況や今後の計画、ICT機器の導入による成果や課題などを話し合い、よりよい学習環境の整備に向けて検討しています。

また、教育委員会からICT機器を活用している実践校の事例なども紹介し、よりよい活用の仕方についても検討しています。

ICTを活用した授業風景



各学校において、タブレット端末やプロジェクト、電子黒板などを活用した授業に取り組んでいます。

学力向上のために、どの場面でICT機器を使うと効果があるのか、今後も検討していきたいと考えています。

ICTを活用した研究会

各学校においては、研究授業後の研究協議の時間でも、電子黒板などのICT機器を活用しており、活用方法の工夫を図っています。今後もICT機器活用の可能性を検討していきたい

と考えています。



ICT活用指導力向上研修会

【目的】

ICT機器を活用した授業実践に向けて、機器活用のスキルアップを目指した研修を行い、今後の授業に役立つ実践力を高める。

【概要】

本年度から、教員の授業におけるICT機器の活用能力向上のために、研修会を行っています。
本年度は、計6回を予定し、現在まで4回の研修会を実施しました。

研修会の内容ですが、講演やスキルアップを目指したワークショップだけでなく、教員がICT機器を活用した授業を公開し、参観する研修もあります。毎回、多くの教員が参加し、この研修で学んだことを、実際の授業に生かしています。

【第1回（6月30日）】

松田町がICT事業を委託している業者の社員が講師となり、タブレット端末の活用方法について、講義及びワークショップを行い、効果的な活用方法についての研修を行いました。



【第4回（11月17日）】

帝京大学教育学部 福島健介教授をお招きし、「情報機器

（特にタブレット）を活用した教育活動」という演題で講演を行い、授業において大切なことや情報機器を授業で使用する意味などについて学びました。



「神山・町屋コース」(その2)

この道は「古代の道」奈良・平安時代の道と言っても良いと思います。その理由は人馬継立場であった「町屋の」にへいさん（黒塀）（写真）のお屋敷付近を、足柄街道（足柄路）の松田惣領付近として「かながわの古道50選」に指定され、京都・坂東間の官道と言われています。

松田の文化財探訪



《矢倉沢往還3》
文化財保護委員 草門隆

神山神社の参道から見ることが出来る北村家のタブの木は、800年以上前から何代にも渡り命を繋いできて「頼朝が富士の巻狩りに際して立寄り、この木に旗を立てて本陣とした」と『皇国地誌残稿』などにあります。この富士の巻狩りに関する口碑伝承としては、東方・篠窪（大井町）の小島家には、頼朝公に

湯茶をたてたと言う陣釜、鉄釜の話、西方・千津島（南足柄市）の豪族・瀬戸家には、頼朝に関連した百個の弁当箱の話が『史談足柄』にあります。更に「足柄峠のお茶屋さんが頼朝をもてなし土地を与えられた」という話もあり、度々この「峠越え」を行った様です。

清水の道筋の人達のお蔭をもつて、生垣・塀・門扉・蔵（家紋）、山王社の石造物などに、その面影が残されています。

また、町屋の山王社や人馬継立場（問屋場）付近は「古道50選」に加えて、町屋界隈として「かながわのまちなみ100選」（昭和62年）にも指定され、一町民として誇らしく感じます。この道筋の町屋から神山清水までを「青山街道」と言う、と「御祭礼覚書」の御神輿巡御の中に記されています。寒田神社は、昭和16（1941）年、県社に昇格しました。その記念の扇子が本年発見（神山・中村家）されました。また、昨年10月3日には、盛大に「御創建千七百年式年大祭」が挙行されました。